

当院回復期病棟スタッフへのチーム医療に関するアンケート調査

(医) 康心会 ふれあい町田ホスピタル

○ 小林幸治 (OT) 古見隆太 (PT)

【はじめに】

当院回復期病棟は開設4年目となり、今年度は休日リハの提供体制や家族交流会の開催を開始し、法人内における回復期リハ看護講習会の第1回開催などを行ってきた。今年度「全員で患者さんを良くした！と感じられるようにしよう」「何でも話し合える雰囲気づくり」すなわちチーム医療の充実を年間目標として取り組んでいる。その一環としてスタッフに対するアンケートを企画、実施した。アンケート調査の目的は、①当院回復期病棟におけるチーム医療の現状を知る、②良好なチーム医療についてスタッフの考え方の傾向を知る、③普段困っていることを知る、とした。

回復期リハビリにおいてチーム医療が選択肢ではなく基本的価値観であることを疑う人はいないだろう。しかし、当院では普段、看護師とリハ専門職との文化の相違に戸惑ったり、患者中心の理念を掲げながら業務優先となりやすかったり、個々のスタッフが自立して動くというより所属長などが逐一指示しないとばらばらになりやすいなどの印象が強い。野中は、利用者のためのチームワークや連携のためには意図的な努力が必要であり、それは①目的・目標の共有、②互いに不足の感覚・工夫の意識を持つ、③互いの能力を知る、④チーム内の対等平等性と直接顔を合わせた仕事、⑤管理職や組織が個々の活動を後押しすることによって促進されるとする。今後当病棟では、これらをスタッフ全員に見える形で行ってチーム医療を改善していく必要があるが、アンケート調査を行うことで現状を知るきっかけとなると考える。なおこの結果は、病棟担当者会議、リハ科合同勉強会、当法人町田ブロック全体研修会などで報告し、スタッフへの啓蒙とすることを狙いとする。

【方法】

調査対象は、当院回復期リハ病棟勤務の常勤・非常勤看護師（派遣を除く）・看護助手、病棟専従リハスタッフ、その他リハスタッフ、医療ソーシャルワーカーとした。

アンケート項目は、属性として職種・勤務形態・年代・性別・経験年数を、質問項目として①良好なチーム医療を決定する要因と考えること、②チームアプローチを取るために日頃よく用いる手段とその長所・短所と考える点、③他職種との連携の上で困ること、④他職種への要望、⑤どの程度連携が取れていると思うかとその理由、⑥日頃チームアプローチに関して心がけていること、⑦チームアプローチが有効に機能すると可能となることは何と思うか、⑧チームアプローチを良好にするために必要な手段は何かについて尋ねた。

【結果】

回答数は合計58名、回答率89%（病棟スタッフ96%、リハ80%、MSW100%）であった。質問⑤「どの程度連携が取れていると思うか」に対し、「まあまあ取れている」病棟0%、リハ25%、MSW80%、「あまり取れていない」病棟91%、リハ68%、MSW20%、「全く取れていない」病棟9%、リハ・MSW0%であった。

【考察】

対象者が限られ、職場でのアンケートであり本音を回答できなかった可能性があるが、現状に対し大半が不十分と回答し、目標とのかい離を感じているスタッフが多いことが示された。今回の結果を十分検討し、具体的改善策につなげていきたい。